

特集 4

令和4年度 彩の国埼玉環境大賞受賞者の紹介

環境問題の解決には、県民、団体、事業者、行政などの社会の各主体が正しい理解と知識を持ち、環境に配慮した行動を実践していくことが必要です。

ここでは、実践事例として、令和4年度彩の国埼玉環境大賞の受賞者を紹介します。

県民部門

草加商工会議所

コミュニティフリッジによる食品廃棄ロス削減と生活困窮世帯支援の両立

【主な活動場所】 草加市

【代表者】 会頭 野崎 友義

平成28年度から地場産業の皮革事業者と連携し駆除した鹿の皮を製品化するなど廃棄ロス削減の取組みを開始。令和4年度から商工会議所主導によるコミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）事業を新たにスタート。

廃棄予定となる食品を引き取り、公共冷蔵庫に入れ、生活困窮世帯などに提供することで、食品廃棄ロスの削減に貢献。

商工会議所が主導となることで、地域の事業者や利用者などを巻き込み、自律的・安定的な事業として展開している。



大賞

事業者部門

株式会社CRS埼玉

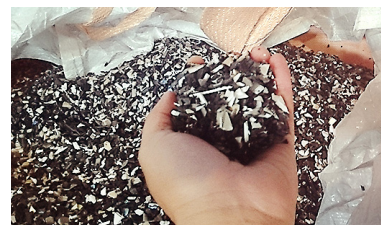
自動車破碎残渣減量及び地域での啓発活動による循環型社会形成への取組

【主な活動場所】 川越市

【代表者】 代表取締役 加藤 一臣

車体バンパーの樹脂チップ化によるリサイクルやエアバック・シートベルトの生地を、素材の特徴を活かしてバックとしてアップサイクル製品とするなど、リサイクル困難な廃棄物の減量・資源の循環に取り組んでいる。

また、エアバック生地を活用した上履き袋を小学校へ寄贈、高校デザイン科の生徒がアップサイクルバックを製作するための生地の提供、SDGs* イベントの開催など、地域の住民や企業が環境意識を高める活動を行っている。



県民部門

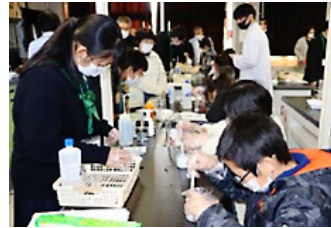


特定非営利活動法人 **NPUサイエンスアカデミア**

【代表者】 代表理事 野澤 直美

主に秩父地域の子供たちや社会人などに対して、秩父の自然の魅力と深さに焦点を当てた秩父サイエンスアカデミーを実施している。

「実験の部」では、教育委員会など各機関との連携を図り、地球環境問題や森の働きについての講演と実験を行い、「研究発表の部」では、秩父の自然や森林等を研究している多彩な研究者（小学生～社会人）の発表会を展開。秩父地域 1 市 4 町の後援を得て毎年実施するなど地域に定着した取組を行っている。



埼玉県立桶川西高等学校科学部

【代表者】 学校長 脇岡 誉士

教室の一室に大型水槽を置き、約50種類800匹以上の魚類を中心とした様々な生物を飼育・展示。ハートフル桶西水族館として年間約2000人の来館者がある。小さな子供の来館者には、模擬釣り体験やすごろくを通して、分かりやすく在来・外来生物の問題点を説明している。

また、地域の自然再生事業での在来・外来魚の展示やコウノトリの保護繁殖への協力、サケの稚魚を育てて放流する活動など、活動の幅を拡大している。



特定非営利活動法人 **埼玉県建設発生土リサイクル協会**

【代表者】 理事長 小沢 正康

建設発生土のリサイクルを普及促進させるため、平成9年度全国に先駆けて協会を設立し、25年にわたり活動を継続。県内12のプラントにおいて建設工事で発生する土を石灰改良し、盛土材や埋め戻し材等として再利用するとともに、工事現場間での建設発生土のマッチングを行うことで、建設発生土の量を抑制している。

また、家庭の植木鉢の土の回収活動や浄水場から発生する土と黒土を混合し園芸用土にする活動を行っている。



特定非営利活動法人 **つるがしま里山サポートクラブ**

【代表者】 代表理事 小澤 邦彦

市民の森を中心に子ども達や保護者に森を体験してもらい、その大切さを考えてもらうことを目的に平成15年に設立し、20年にわたり継続して活動。学童クラブや学校と連携し、子ども達の自然体験イベントを多数開催するとともに、里山* 調査、植樹なども展開。10haを超える市民の森の清掃活動では、地域の他団体と連携して取り組んでいる。川の清掃活動によるホタル発生やイベント参加者も増えるなど地域における環境への関心を高めている。





県民部門

埼玉県立所沢おおぞら特別支援学校

【代表者】 学校長 掛川 達雄

特別支援学校の生活単元学習として行う農作業活動において、所沢市と地元農家の協力のもと、地域の伝統である「落ち葉堆肥農法」を学び堆肥作りを行っている。地元里山*の森林資源を有効に活用し、地域との連携の中で環境循環学習（里のSDGs学習）を行い、さらに堆肥農法を経験しながら持続可能な社会を目指し、障害者と地域がふれあう共生社会と、地域の環境保全に寄与している。



比企自然学校

【代表者】 代表 櫻井 行雄

比企の自然・文化を生かした持続可能な社会を目指して平成13年に設立。「川の学校」「森の学校」「おとなの部活」など、地元の自然を活用した環境保全活動や交流の場づくりを長年にわたり実施している。

川の学校では、小中学生を対象にした川遊び教室やカヌー体験会、プラごみ回収活動など実施し、森の学校では、里山の間伐や薪割り体験会などを行っている。薪は、「里山薪」として販売し、その収益と会費で自立運営した活動を行っている。



事業者部門

ウォータースタンド株式会社

【代表者】 代表取締役社長 本多 均

水道直結型の浄水型ウォーターサーバー（ウォータースタンド）を活用し、平成30年から使い捨てプラスチックボトル削減を目的としたボトルフリープロジェクトを開始。

公共施設等にウォータースタンドを設置し、マイボトルの利用を呼び掛けている。また、教育機関への出前授業や環境問題のポスター掲示などを通じ、マイボトルへの給水の意義・目的を発信し、ライフスタイルの見直しにつながる啓発活動を実施している。



株式会社きめのいえ

【代表者】 代表取締役 吉田 昌弘

黄ばみや退色などで捨てられてしまう衣類を染め直して再度着られるようにする染め直しサービス「SOMA Re: (ソマリ)」を行っている。

衣類を染め直すことで、廃棄される洋服の処分量を減らすとともに、新たに蘇らせるといった価値を付加させ、衣類の使い捨ての流れを変えることで、環境負荷を考慮したサステナブル（持続可能）なファッションにつながる取組を展開。





事業者部門

西武バス株式会社

【代表者】 代表取締役社長 塚田 正敏

CO₂排出量削減のために、路線バスの一部において、軽油に代わる燃料として、従来の化石燃料ではなく、バイオディーゼル燃料や廃食油等再生可能資源由来の燃料を原料とするディーゼル燃料（リニューアブル燃料）を利用した運行を実施。

リニューアブルディーゼルで走る旅客バスは日本初。持続可能な社会の実現に向けた取組を「サステナビリティアクション」として位置付け、公共交通機関として地球環境負荷軽減のために積極的に取り組んでいる。



古郡建設株式会社

【代表者】 代表取締役 古郡 栄一

ジョギングを楽しみながらゴミ拾いをする「Plogging」（プロギング）は、街のゴミが減り、健康にも良く、コミュニケーションの活性化という一石三鳥の活動。

関係機関と連携・協力し、参加企業や一般参加者も募るなど活動を継続・発展させるとともに、SNSなどで発信しメディアにも取り上げられる。

「社会貢献したいけど何をしたら良いかわからない」という声があるなか、SDGs*を広めるきっかけとして、気軽に参加できる取組を推進している。



県民部門

朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会

一般社団法人 一掃計画

特定非営利活動法人 埼玉ハンノウ大学

あすばる自然観察会

さいたま市立芝川小学校・遮熱フェス実行委員会

本庄すみれ幼稚園

事業者部門

株式会社警備ログ

株式会社新富士空調

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

株式会社タムラ製作所 坂戸事業所

●彩の国埼玉環境大賞とは

埼玉県、(株)テレビ埼玉、埼玉県地球温暖化防止活動推進センターが主催し、環境保全や環境学習に取り組む県民や団体、事業者を表彰しています。令和4年度は63組の応募に対し、審査の結果、大賞2組、優秀賞10組、奨励賞10組、計22組の受賞が決定しました。